



山企第100号  
平成19年4月27日

国土交通省道路局長 殿

山都町長 甲斐利幸



中期的な計画の作成にあたっての意見書について

平成19年4月2日付け、国道企第114号にて依頼のありましたこのことについて、別添のとおり提出します。

国土交通省道路局長 様

## 中期的な計画の作成にあたっての意見

私の町は、平成17年2月11日、旧矢部町、旧清和村、旧蘇陽町が合併して山都町として誕生した。

合併を比較的順調に進めることができたのも、国道218号を始めとする4本の国道や14本の県道が、広大な面積でありながらも、ネットワークとして、旧3カ町村を有機的に結んでいることが、大きな理由の一つと考えられ、改めて道路の持つ効用の多面性に感謝している。

山都町の道路整備のパターンとして、機能別に

- 1) 町と外（外と町）
- 2) 中心地と地域（地域と中心地）
- 3) 地域と地域
- 4) 集落内

4つに整理し、それぞれ有機的に結んでいくことを考えている。

1) については、国道445号、218号、265号、325号や主要地方道矢部・阿蘇公園線、益城矢部線、清和砥用線等の県道である。勿論、九州横断自動車道延岡線の早期完成を期待している。

2) については、県道と町道がその機能を果たしている。

3) については、主に町道がその機能を果たしている。

4) については、町道がその機能を果たしている。

道路の機能を大きく分類・性格付けすることにより、その整備、維持も、その機能を考えながら対応すべきと考えている。4) については、国土交通省の補助制度のみではなく、地域再生事業や農林水産省の制度事業を導入しながら、計画的に効果を見極めながら整備を進めている。

これまで述べてきたことは、当町の形成を図るうえでの道路整備の手法であるが、国におかれても大きい意味での国土形成計画のなかでの道路整備の全体像をお示しいただくことをお願いする次第である。

その中で、自動車高速道として公表されている基本計画は、日本の道路網整備における、将来における最終的な完成の姿である。国の責任として、国の役割を考えて地方分権論議があり、国と地方という仕分けが進みつつある現在、高速道の整備に向けての国の役割を確実に全うしていただくことを併せてお願いする次第である。

地方に人が住めなくなると、町土・国土の荒廃につながる恐れがあり、道路特定財源の見直しに関する具体策の中で「真に必要な道路整備は計画的に進める」という閣議決定を踏まえ、国の責任で作るという約束をなされた高速道路については、9,432kmは当然のことながら、14,200kmについても、中期的な計画の中で、確実な進展をみるような表現をすべきと思われる。

国の経済景況の回復も著しいなかで、国土の均衡ある発展を図るうえからも、長期的な国土形成・計画を見据えた、中期的な道路整備の姿をお示しすべきであると思われる。

成熟社会を迎え、人口減少時代に入った日本であるが、高速道路の基本計画の推進は、国が国民に示したものであり、国政に対する国民の信頼を裏切らないためにも、確実に真に必要な道路として整備すべきであると思われる。

国の高速道路網は、物・人・文化の交流のためにも、国土形成の最も重要な大動脈と考える。

これから、国民のライフスタイルも、あくせくとした経済的欲求に基づく行動から、ゆとりを求める時代となることが予想される。

こうしたとき、箱のなかで生まれ、箱のなかで育ち、生活し、箱のなかで通勤し、箱のなかで働くという、日常的な都市住民の生活スタイルは、ビル街から、又隣が近い生活空間から開放されることを望むものと予想している。

緑豊かで、広い空間を持つ地方こそ、これからの時代には癒しの機能を持っている故に、容易にアクセスできる高速道路の整備が必要である。地方の魅力は国民共有の資産である。アクセスの改善によって、共有の資産が評価されることを望んでいる。均衡ある発展は、高速道路の整備によってこそ可能と考える。容易に通勤できることとなれば、地方に住み続けることとなり、都市住民も対流を更に頻繁に行うこととなる。

地球温暖化防止に森林は勿論のこと、緑が大きな貢献をすることを考えると、地方が広大な国土を維持保全していくためには、高速道路の整備こそ重要であると考え。更に、国道、県道、市町村道の計画的な整備が必要である。

都市の利便性を地方も期待できるために、高速道路が必要であると考え。具体的な例である、九州横断自動車道延岡線は過疎化尚進展中の本町にとって起死回生の特効薬であると期待している。都市住民の対流を期待するとき、当町は豊かな自然に恵まれた九州中央山地国定公園をはじめ、阿蘇、高千穂、椎葉村と隣接し、石橋群、瀑布群等は、観光資源としてもアクセスが容易であることから脚光を浴びることとなる。町内の道路網とあいまって地方の努力が更に実効性のあるものとなる。

住民が地方に住める環境整備を行いながら、住民にも住民としての役割を期待している。道の美化においては、道守運動・愛護運動を進めたい。更に、道路整備にあたっては、機能だけの視点だけではなく、デザインにも配慮すべきである。

シーニックバイウェイ、トルパの考えは、大いに支持できる。風格のある道の姿を期待している。

道路の機能には、公共スペースとしての機能も期待する。道路の緑化にも配慮したロードパーク等の整備も期待したい。

市街地にあつては、市街地におけるトータルの整備計画のなかで、道に多様な働きを期待する整備が必要と考える。

バブルが膨らんだ時代の町道の舗装が痛み始めている。この修繕が大がかりに必要となっているので、これらへの計画的な支援制度も期待したい。

平成19年4月27日

山都町長 甲斐 利幸